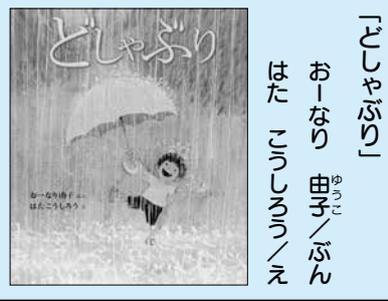


「雨」の絵本



今夜は十五夜。なのに雨が降ってきた。てるてるぼうずは、子どもたちに悲しい顔を書かれ、あめふりぼうずに。あめふりぼうずがしくしく泣いていると、お月見だんごが話しかけてきて…。貼り絵の独特な味わいが魅力的な絵本。  
 せなけいこ氏は、東京生まれ。武井武雄氏に師事。日本児童出版美術家連盟会員。「いやだいやだの絵本」でサンケイ児童出版文化賞受賞。ほかの作品に「おばけのてんぷら」など。

雨の日、かさとながぐつがおでかけしています。「わあい」とながぐつが言うと、かさは「いあわ」と言いました。さかだちしたかさは、言葉もさかさになるのです。雨のなか、大喜びしていると…。言葉遊びが楽しい絵本。  
 二宮由紀子氏は、1955年大阪府生まれ。作家、翻訳家。「ものすこくおおきなプリンのおうで」で日本絵本賞大賞受賞。

ばらばらっ、じゃばば、ぶっしゃーん…。ぼくのところに、雨の音が降ってくる。傘なんてけつとばして走れ！どしゃぶりと遊ぼう！雨の音が聞こえる絵本。  
 おーなり由子氏は、大阪生まれ。絵本作家、漫画家。エッセイや子どもの歌の作詞も手がける。

その他の本

- ◆ 「ぼつぼつぼつだいじょうぶ？」  
しもかわら ゆみ／作
- ◆ 「トリとトリりあめのひのおはなし」  
どい かや／作
- ◆ 「モリくんのあめふりぴーまんカー」  
かんべ あやこ／作
- ◆ 「くすのきだんちのあめのひ」  
ふしか 武鹿 悦子／作  
すえざき しげき 末崎 茂樹／絵
- ◆ 「あめといっしょに」  
たなか ゆか 田仲 由佳／作
- ◆ 「あめがふるふる」  
たじま せいぞう 田島 征三／作

6月の催しもの

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、6月30日（火）までの図書館で開催する行事は中止とさせていただきます。

蔵書と図書館システムの点検による休館

休館期間：6月30日（火）から7月14日（火）まで  
 ※上記の休館に伴い、6月17日（水）から29日（月）までの間、資料の貸出期間を4週間とします。

俳句

「瓢苗」  
 水を遣るしぶき路地まで瓢苗  
 ま青なる家郷の空や風薫る  
 獣道を里へと辿る五月闇  
 永井 年國  
 大脇 勝博  
 吉野 童子

川柳

扶桑川柳クラブ  
 ポイントの溜まる喜び無駄を買い  
 ムカデ型ロボット出来る世の早さ  
 三代を働き抜いた手労り  
 谷口 妙子  
 尾関ときよ  
 大西 陽子

短歌

ふそう短歌会  
 ようやくに根付きし胡瓜ゴーヤ苗  
 夏空めざし高く伸びゆく  
 憂き世とて変わらず空に浴け込みて  
 青き紫陽花今年も咲きぬ  
 いずこから鳥はこび来し実の一つ  
 庭に南天の苗そだちゆく  
 酒井外美江  
 中山 幸代  
 後藤 一枝

詩吟

「酔うて祝融峰を下る」朱熹  
 我來つて万里長風に賀す  
 絶壑の層雲許く胸を盪かす  
 濁酒三杯豪気発す  
 朗吟飛び下る祝融峰  
 「意」万里の彼方から吹いてくる風に乗って、この祝融峰にやってきた。深い谷から、もくもくと湧き出る幾層にも重なった雲の様は、胸を揺すって止まない。濁り酒を立て続けに三杯もあおると、たちまち豪快な気分がわき起こる。高らかに詩を吟しながら、飛ぶように祝融峰を走り下ってきた。  
 正風流二代目家元 山内 正風